

# 一歩会だより 第19号

テーマ：環境のクリーンアップ



四国遍路の環境と文化を守り、世界遺産へ！  
受け継ぎ、伝え、そして創り出していく



**NPO法人 徳島共生塾一歩会**

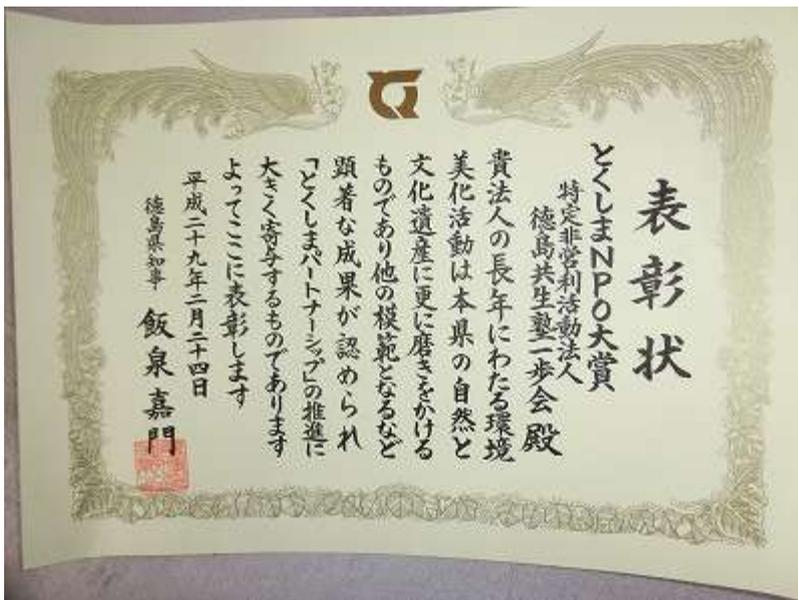
事務局担当（米川）〒779-1121 阿南市那賀川町黒地 158 番地 4

080-6397-6888 Tel/Fax 0884-42-1371

E-mail: yonekawa-hirosi-anan@tune.ocn.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2017年06月発行

平成28年度  
とくしまNPO大賞を受賞できました



平成29年2月24日（県庁知事室）

\*表紙は会員内田武男さんの制作です。

## 顔写真で綴るこの1年間の活動(1)



4月 花見会場のごみゼロ作戦



6月 阿南市蒲生田海岸美化作業



7月 海岸での生物調査



6月 日曜日でのゴーヤの苗販売

## 顔写真で綴るこの1年間の活動(2)



10～12月外国人遍路体験講座

1月 絵画コンクールの表彰式



3月 遍路道クリーンアップ作業(鮎喰川沿い)



2月：一日一斉おもてなし遍路ウォーキング

## 目次

- 表紙裏 平成28年度「とくしまNPO大賞」受賞
- 顔写真で見るこの1年間の活動(1)(2)
- 巻頭言「一步会理事長に就任して」 理事長 谷口 右也・・・・・・・・・・ 2
- 会員への御礼と今後の課題 前理事長 新開善二・・・・・・・・・・ 3

### ★特別寄稿

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| ○ 新入社員向けに歩き遍路研修を     | 佐々木康夫・・・・・・・・・・ 6     |
| ○ 吉野川河口域をラムサール登録湿地へ  | 藤永知子・・・・・・・・・・ 8      |
| ○ 徳島新聞コラムより          | 宮本光夫・・・・・・・・・・ 9      |
| ○ 徳島外国人遍路ウォーキングを実施して | 徳島大学国際センター・・・・・・・・ 10 |
| ○ 遍路遠足に1000名の学童が参加   | 濱尾功久・・・・・・・・・・ 11     |

### ★一般寄稿

- **一步会へんろこばなし** 菅井田溪溪・・・・・・・・・・ 14
- 食べくさしのままにせんように 大垣光治・・・・・・・・・・ 16
- 変化とは生きてる証 内田武男・・・・・・・・・・ 18
- 海岸の遍路道ウォーキング 富田欽二・・・・・・・・・・ 20
- きれいな街は「市民の一步」から 瀬尾規子・・・・・・・・・・ 22
- 松江豊寿とドイツ人俘虜たち 川井ふみ子・・・・・・・・・・ 23
- 一步会の活動を振り返って 多田昭恵・・・・・・・・・・ 24
- 一步一步前進を 福谷洋介・・・・・・・・・・ 25
- 「MOTTA I N A I」を世界に広めよう 笠井光顕・・・・・・・・・・ 26
- 会員の新聞投書紹介 ユース会員・・・・・・・・・・ 27
- 一步会の表彰歴 新開善二・・・・・・・・・・ 28
- 活動資金の寄付を頂きました 新開善二・・・・・・・・・・ 29
- 平成29年度活動イベント予定 事務局・・・・・・・・・・ 30
- 遍路研修の講座メニュー 〃・・・・・・・・・・ 31

### ★編集を終えて

富田欽二・・・・・・・・・・ 31

### ★裏表紙 お遍路さんへのお接待

## 「理事長に就任して」

理事長 谷口 右也

5月の総会において二代目の理事長に選任されました谷口です。平成9年からの任意団体時代の三田（元）会長、そして、法人格を取得してからの新開（前）理事長、なにより本会を支えていただいた会員の皆様方のご尽力により、今日の一步会があるものと感謝しています。さて、新開（前）理事長からは、大きな成果とともに、当会の抱える課題をお示しいただきました。成果の詳細は省くとして、その取り組みの評価としての「大臣表彰」や「県のNPO大賞」をいただきました。

一方、課題の大きな部分は、いずれも県内のみならず、我が国のNPO法人が抱える共通のものであろうかと思えます。平成10年過ぎのNPO法人の黎明（れいめい）期には、「これからは、このNPOという第3番目のセクターが時代を変えていくんだろうな!」という、胸躍るような躍動感を感じたものでした。しかしながら、当事者の志の高さに反して、「財政的な厳しさ」や「社会的な評価とのギャップ」「専従スタッフや事務所を持たないことから生じる現実的な各種の不自由さ」などいろいろな団体が課題に直面し、その克服に苦労した歴史であったと思えます。そんな中、ここまで育てていただいた一步会のこれからはどうあるべきでしょうか。

**1本目の柱**は、言うまでもなく、「これまでの成果の継承、そして発展」であります。これまでの取り組みの手抜きは、一步会の「評価を下げること」ではなく、「マイナス評価」となってしまう。

**2本目の柱**は、新たな展開の模索です。しかしながら時代は進化し続け、多様化、複雑化し、どこに私たち一步会の新たな活躍の場があるのか、活動のニーズがあるのか、たいへん見えにくくなっています。そこで、まずは私たちの原点、「地球の課題を、行政や企業、住民と一緒にネットワークを組み、額に汗して解決していく」というグラウンドワークの原点に立ち返り、地域を見つめ直し、方向性を探っていきたいと考えています。

**3本目の柱**は、会員各自の生き方です。私自身は、「かっこいい年寄り（ジジイ?）」を目指しています。年齢は違っても、仕事や活動は違っても、フラットな関係で、一步会のこと、地域のこと、徳島県のこと、そして日本の将来を、熱く、そして楽しく語り合える仲間づくりを推し進めたいと思っています。

今の私は、定年退職1年目、60歳、いえ、この5月で61歳になりました。なかなか汗をかきませんし、気持ちもなかなか燃えてこなくなりました。が、今しかないと思っています。みなさんと一緒に、心は熱く熱く、そして爽やかな笑顔で、“坂の上の雲”を追いかけていきたいと願っています。



## 会員への御礼と今後の課題 (理事長を退任するにあたり)

前理事長 新聞善二

平成28年度で一步会は丁度20年にわたる活動を終了できたこととなります。会員皆様のお力で「環境と遍路文化の保全と伝承」を基本方針として、数々の活動に取り組むことができました。

平成13年NPO法人の認証を受けて以来、15年間にわたり理事長を務めさせていただきました。副理事長や役員各位をはじめ多くの会員の皆様に支えられてNPO法人の運営ができました。皆様のご支援ご協力に深く感謝したいと思います。



この節目の年にあたり、徳島県飯泉知事より平成28年度「とくしまNPO大賞」をいただくことになり、将にグッドタイミングの快挙ということに他なりません。

私が理事長として一番心を遣ったのは、会員の皆様の“気に向けていただくこと”でした。会員が一步会のことで行ってくるかという気になって頂くことが何より一番でした。そして“身の置き場所として心地よい団体”であることが必要ですが、個性豊かな会員のみなさまが集まれば、おのずと楽しい心地よい雰囲気ของกลุ่ม集団になりました。同じ活動を目指した人たちの集まりかも知れませんが、心地よい身の置き場所であることは、団体運営の基本だと思います。

皆様の気持ちの一つになれば、目指す活動も果たすことができ、地域への貢献もできて、マスコミや周囲から目のとまることになりました。記者のみなさまにも随分沢山の取材を受け一步会の活動を世間に伝えて頂きました。

新理事長・副理事長に引き継ぎたい、お願いしたいことは、この会員がよそを向かず“一步会に気を向ける”よう日常で留意して頂きたいということです。毎年20あまりの活動イベント（作業活動、連携活動、講演会フォーラム等）も殆ど計画通り遂行することができました。しかし、一步会という組織は強くなったか、これからは大丈夫かという、大きな課題が未解決のままです。今のままでは、あかんという議論をしておりますが、時間をかけて取り組む課題もあります。課題の項目は次の通りで、問題意識を共有して、ひとつひとつ、よくなるよう努力しようではありませんか。

### 【一步会の今後の課題】

1. 稼げる事業を探せないか。(委託事業、助成金事業ばかりで収入が不安定)
2. 事務所がどこかに見つからないか。(組織運営の拠点が必要。)
3. 会員のITレベルを上げられないか。(メール連絡、ネットでの広報、プレゼン要領他)
4. 一步会ユースの運営がいまいち未熟。(会員同士の報連相—報告・連絡・相談の不足)

## 新体制による役員会の様子

6月21日（水） 会場：エコみらいとくしま



# 特別寄稿

～ 特別会員とか会員以外の方から  
いただいた寄稿とか情報です～



お名前 (継承略)	寄稿のテーマ	団体名
佐々木康夫	大手企業の新入社員向けに 歩き遍路研修を	遍路用品のネットショップ いっぽー歩堂(株)社長
藤永知子	吉野川河口域を ラムサール登録湿地へ	吉野川ラムサールネットワーク 代表
宮本光夫	徳島新聞寄稿のコラム	グラフィックデザイナー、 歩き遍路
徳島大学国際センター	外国人の遍路ウォーキング	異文化キャラバン隊
濱尾功久	子供遍路遠足に1,000人 が参加	徳島市退職校長会代表

## 大手企業の新入社員向けに歩き遍路研修を

特別会員 佐々木康夫（茨木市 いっぽ歩一歩堂 代表取締役）

まずは新開理事長がご退任されるにあたり、永きにわたるそのご功労に心より感謝の意を表します。私ども「いっぽ歩一歩堂」は、大阪を拠点として2008年からインターネットでのお遍路用品販売を開始しました。四国お遍路さんのためのお得な巡礼商品ショップ「いっぽ歩一歩堂」のホームページを一度覗いてください。 <https://www.ippoippodo.com/>

事業開始のきっかけは2006年に歩き遍路で四国を一周したことでした。40日間の歩き遍路では四国の大自然の中をひたすら歩き、数多くの方からのお接待を受け、感動の連続でした。私は結願前日に、とあるおへんろ休憩所で「へんろみちは心のふるさと」という一枚の紙をもらいました。その紙にはこう書かれていました。“「利潤、能率、安全、快適、利便」といった現代人とは全く逆の「非能率、不便、危険、苦痛、不足」をへんろみちで体験して、「感謝、思いやり、我慢、信頼、尊敬」という、人間にとって最も大切なものが呼び覚まされる。まさにお遍路とはこの通りだと感じ、涙が出そうになりました。その時の私は歩き遍路の旅を通じて、「感謝の心、謙虚な気持ち、素直な心」に目覚始めていたからです。

その体験が強く心に残っていた私は、2011年に「歩き遍路研修」という企業向けの研修を開始しました。いわゆる「ゆとり世代」と言われる昨今の若者に、社会人になる上で絶対に必要となる「人間力」を歩き遍路を通じて身に付けて頂きたかったからです。都会では道行く人と挨拶を交わすこともありません。しかし、お四国の人々は昔からお遍路さんに親切で、お遍路さんの装束をして歩いていけば温かい声をかけてくださいます。また、小さな子供が大きな声で挨拶をしてくれたり、見知らぬ人からの飲食物などの「お接待」に研修参加者の皆さんは一様に驚かされます。

このような普段の日常の生活ではできない、お接待の体験を経て、『自分は一人の力で生きているのではない。いろんな人に支えられて生きている。』、それを実感し、人間にとって最も大切な感謝の気持ちが不思議と呼び覚まされるのです。歩き遍路研修では、日中は歩き遍路で長距離を歩き、夜は宿坊に泊まり下座行や、御住職様の法話を聞くなどして、非日常の環境下で高い目標を達成することにより、人が本来持っている 資質・能力に気付き心・身・社会的に 健全な社員の育成・強化を目指しております。

スタートした時



6



最終ゴールした時（太龍寺）

そんな研修方針が大手ベビー用品メーカー「コンビ株式会社」様の人事の方の目に留まり事業開始直後の2011年に幸先よく、新入社員向けの「歩き遍路研修」を実施することになりました。コンビ様は当時の社長様が歩き遍路経験者であったこともあり、すぐに研修採用となりました。歩き遍路研修では2泊3日で約50kmの距離を歩くのですが、新入社員の皆さんは普段お参りなどしたことが無いため最初は困惑の表情で、見様見真似で公認先達スタッフから参拝の作法を学び、見慣れない地図を見ながら次の札所へと一人一人単独で歩きます。研修中には、道に迷って時間内に到達できず自分の不甲斐なさに涙する者や、地元の方々の優しさに触れて感動する者、馬の合わない社員同士が歩き遍路で助け合い最終的に結束するといったようなアウトドア研修ならではの座学では絶対に得られない内容たっぷりの3日間で、人事の方には好評をいただいております。コンビ様は2010年までは禅寺での研修を導入していたとのことでしたが、イマイチ効果が上がらず悩んでおられたとのことでした。しかしながら、本研修は2011年～2017年まで7年連続で新入社員向けの研修をご依頼いただいております。

2014年からは、資源会社大手「JFEミネラル(株)様」、2016年からは電子部品大手「日本サムスン(株)様」など東京の大手企業の新入社員研修をご依頼いただき、事業は広がりを見せております。最近では子供の数の減少のためか、就職活動も売り手市場となり、人材確保も各社で争奪戦となっています。入社後に新入社員にすぐに辞められては困るため、新入社員研修も厳しい内容のものが無くなりつつあるとのことですが、歩き遍路研修を導入される企業様の人事の方針は、人材育成に信念のようなものを感じます。

私どももそれに全力で応えねばと日々努力しております。お遍路に「企業研修」という新たな可能性を見出すべく、今後も邁進していく所存です。なお、研修では、毎年、「徳島共生塾一步会」の皆さまの多大なるサポートもいただいております。道中のお接待はもちろんですが、手書きの「手作り応援看板」を毎年制作いただき、地蔵越へんろ道の山中の道の樹木に取り付けて頂いているのです。(写真参照)本当にありがとうございます。研修参加者の皆さんは、歩き遍路の道中、それを見てとても勇気づけられております。その手作り看板は毎年、東京へ持ち帰られ、同期同士の結束の証として大事に保管されているそうです。いっぽう一步堂は、徳島共生塾一步会の特別会員でもあり、活動も今後も応援させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2014年には、歩き遍路研修は新入社員向けだけでなく、中堅、中間管理職、幹部社員なども実施していますが、やはり学生から社会人へと生まれ変わる新入社員向けが一番効果的だと思います。

山中の道沿いに掲示したダンボール製激励メッセージ  
(大事に東京まで持ち帰った。)



\*コンビ(株)の講座内容の写真が裏表紙に紹介してあります。

## 吉野川河口域を“ラムサール登録湿地”へ

吉野川ラムサールネットワーク代表 藤永知子

私達は、徳島の素晴らしい自然の宝である“吉野川の河口域”一帯をまもり、後世に伝えようとの思いで活動しており、そのために河口域一帯の“ラムサール条約の湿地登録”を目指して取り組んでおります。私は、河川工学が専門の大熊孝先生の話をいつも思いだします。「山川草木悉皆成仏 山川草木悉有仏性」と示され講演されたことがあります。この言葉は仏教の教えで、生きとし生けるものに命があり、成仏できるという意味だそうですが、古来、私達日本人と自然との関係性を言い表しているように思います。大自然の中にあっては、人間も自然の一部にすぎず、こんなに技術が進化した今日でも、自然を人間は、安易に壊したりして、思い通りにコントロールできると傲慢に思っはいけないと戒めていると。(私流の解釈ですが) スーパー台風など、自然からの報復が、すでに始まっているものと心配していますが、どうでしょうか。



さて28年度の環境白書には「高度経済成長以降の開発により、森林、農地、湿原、干潟のような生態系の改変が進んだ結果、これまでに干潟の面積は40%が消滅したこと、河川横断施設等が上流と下流、河川と海との連続性に影響を与えており、河川の連続性の低下は、河川を遡上する生物の移動を妨げる可能性がある」とあります。そして藻場や干潟に依存していた魚の漁獲量も減少しており、海面漁業の漁獲高はピーク時の30%、内水面の漁獲高は

ピーク時の20%に落ち込んでいます。これは、過剰に利用していることと生息地の破壊が進んでいることに他なりません。

このように見てくると、今ある藻場や干潟を保持していくことが、いかに重要であるかがわかります。吉野川河口域には、日本最大級の干潟があり、第十堰から河口まで汽水域となっており、高い生物多様性の宝庫です。この豊かな恵みをもたらす吉野川を次世代へ引き継ぐためにラムサール条約が謳っている「賢明な利用(ワイズユース)」を進めながら、四国で最初のラムサール条約登録地となるように他団体とも連携を図りながら活動を進めて参りますので、皆様のご理解とご支援をお願いします。



## 外国人がお遍路体験にチャレンジ

情報提供: 徳島大学国際センター 会員 新開善二(徳島市)

四国が誇る遍路文化を多くの外国人に知って頂こうと“とくしま異文化キャラバン隊”の皆さん等を対象に歩き遍路の体験講座を実施しました。平成26年～28年まで、6回にわたり、実施しました。参加者は白衣に菅笠、金剛杖のお遍路姿で県内の霊場巡りと遍路道ウォーキングで、日本の伝統文化に触れ、心地よい汗をかきながらも貴重な機会を得ることができました。

霊場の境内では、案内役の先達から手洗いや線香の供え方等参拝のマナーを学び、本堂前では「南無大師遍照金剛」などと大きな声でお経を唱えて合掌をしました。

この事業は外国人に遍路文化についての理解を深めてもらい、四国遍路の世界遺産登録に向けた機運を高めようとの趣旨で実施する徳島県事業の一環で、異文化キャラバン隊のみなさんには、今後も引き続き、積極的にご参加いただくように呼び掛けて参ります。

### 【この3年間の実績】

参加した外国人	24カ国 121名(多い国は中国・韓国・USA・フランス・台湾)
歩いたコース	平成26年 霊山寺～地蔵寺 大日寺～井戸寺 27年 鶴林寺(上り～下り) 切幡寺～吉野川～藤井寺 28年 木岐海岸～薬王寺 大日寺～井戸寺
準備したこと	全員が遍路衣装に身をまとった。白衣+袈裟、菅笠、金剛杖
学んだこと	参拝の作法、お遍路の基礎知識、弘法大師について 歩き方、霊場や遍路道の歴史、般若心経の唱え方 等々



### 【とくしま異文化キャラバン隊とは】

徳島県内の留学生・日本人学生により構成され、運営されています。留学生が大学から地域へ出て、地域の人々と交流しながら、様々な事業に参加、お手伝いします。活動は自発的に行動し、自分達の視点を大事にして、みんなが学び合うことを目的としています。活動のステージは地域で、地域を多様な視点からとらえ、魅力を発見し、新たに地域の宝を見つけることも目標としています。具体的には、地域の文化、芸術、伝統等の体験です。お遍路体験、日和佐の八幡宮祭の御神輿かつぎ、藍染め体験ほか多種多様です。地域貢献活動として、高く評価されています。徳島大学国際センターが事務局で三隅教授他の先生方がご指導、サポートされています。

郵便物認可

5/25

# 徳島人 コラム

年に数回、大学生に遍路体験談や、そのスライドショーを見てもらう機会がある。そのレポートが興味深い。幅広い年代や職業の人に見ていただく展示会とは違って、当たり前なんだが、若々しく真新しい。学生さんは遍路のことは全く知らないわけではないが、遍路旅は寺を巡ること、年寄りがするものと思

宮本 光夫 (芸予遍路4巡目)

っいて遠くから眺めていた程度で、まして全部歩いて行くなんて思ってもない。そんなところへ、さまざまな想いを持った歩き遍路の体験談を写真を主体に紹介した。  
遠くから四国にここが来てきた見知らぬ遍路同士の出会いが、「縁」となっていく様子。地元の人たちとのふれあいや、なんでそこまで？と思うおせっかい。暑かろうが、寒かろうが、雨や雪の中を、ひたすら自分の足だけで、時には40キロも歩き続けたり、歩き通した後の四国に感謝している

## 迷わず 一步前へ

すがすがしい笑顔や、お遍路さんに寄り添うお寺や民宿の心意気などの、非日常の中の数々の物語。しかも中には自分と同世代の写真や言葉には、びっくりしてすぐさま体験してみたいというのだ。「遍路旅とは」といった解説抜きの遍路道現場の話や写真に、目を輝かせている。  
ある学生は、「今の私に最も必要としていることなかもかもしれない」といい。またもう一人は「実は、日常にもある優しい気持ち、日々の忙しき、便利さなどで薄れ、自分自身省みて、迷わず一步前へ。」  
そして遍路道でたっぷり迷子になってほしいと思う。厳しいけど優しい世界が待っている。

宮本光夫さん（グラフィックデザイナー・歩き遍路）が寄稿されました徳島新聞のコラムです。大変味のある内容で、是非、今一度読んで欲しいと紹介します。

徳島新聞（H28年7月31日付け）



## 特別寄稿

### たくましい体と心を育てる学校行事―「遍路遠足」

～平成28年は、延べ1,000名の児童が参加～

徳島市退職校長会 代表 濱尾巧久

「子ども達と一緒に歩けたら楽しいね」

秋晴れの好天の下、柿の実が美しく色づいた「遍路道」を歩きながら会のメンバーの一人がつぶやいたのが始まりである。子ども達にこの素晴らしい文化遺産と田園風景を伝えたい。そして地域の遍路文化を世界に発信できる子どもを育てたい。その思いから、「子ども歩き遍路ツアー」を始めて今年で8年目、「子ども歩き遍路遠足」のサポートを始めて5年が過ぎようとしている。

#### 【1. 子ども歩き遍路ツアーの目指すもの】

今から8年前に地域の文化遺産に触れるとともにその地域の文化を発信できる子どもを育てたい。更に、あるくことの楽しさや充実感・達成感、そして粘り強い心・逞しい心の育成。結果としての体力の向上を目指して徳島市内の小学校に「チラシ」を配り、4年生から6年生までの希望する子どもや保護者を対象に「子ども歩き遍路ツアー」を始めた。

最初は人が集まらず知り合いの方々に口コミで手伝ってもらって実施した。回を重ねるにつれてリピーターが増えてきたので、三つのコース

- ① 県北コース 1番札所霊山寺～5番札所地蔵寺まで
  - ② 県央コース 13番札所大日寺～17番札所井戸寺まで、
  - ③ 県南コース 18番札所恩山寺～19番札所立江寺まで
- を設定し、年次ごとに実施した。



金泉寺にて（平成27年）

#### 【2. 歩く遍路遠足への発展】

もっと多くの子ども達が地域の素晴らしい文化遺産にふれるとともに、子ども達の生活の中でもっと歩くことの楽しさを味わせたいと学校行事の遠足を「歩いて」お遍路をするお寺巡りをしてはどうかと提案した。子ども達の体力低下が話題になっていた時でもあり、四国遍路の世界遺産登録への動きもあり5年前（平成24年）に八万南小学校の6年生、約130名が始めて取り組んだ。

実施に向けて学校の先生方とコースの下見を繰り返し行った。①安全なコースの設定、②トイレの確保 ③休憩や昼食の場所の確保 ④緊急時の対応、⑤天候の変化への対応などを検討した。八万南小学校のコースは学校から弁天山（日本一低い山 6.1m）～18番札所恩山寺～19番札所立江寺までの約15kmを歩きます。途中、恩山寺や立江寺、源義経について学びます。帰りはJRで文化の森駅（学校の校区内にある）まで帰り、そこで解散するという一日程の遠足です。

#### 【3. 平成28年度の実施状況】

平成24年に1校で始まった「遍路遠足」サポート事業も多くの小学校が参加しやすいように新しいコースを開発し、平成28年度は10の小学校、総参加者は1,000名の子ども達の歩く「遍路遠足」となった。新しいコースは、学校から徳島駅まで徒歩、汽車で板東駅へ、その後霊山寺、極楽寺、金泉寺、



ここからは  
会員の自由な寄稿とか  
活動報告、情報等です。



## 遍路亭昼席（PⅢ）



### 大師のそば

徳島市 菅井田溪々

阿波生粋のひょうきん者、寅さんは、きょうも朝っぱらから軽い足どりで、遍路横丁へやってまいりました…なんぞ、おもしろい話はないかいなあ…ナマズのひげか、奴ダコの足のよう、ゆらゆらり。気がつくときと按配よく、ご隠居の家の裏戸が開いてとりまして…。

「こんち…ご隠居はん、おいでるな。わかっとるんでよ」

「おう、寅さんか。なにをモソモソ言うとするんじゃ、ひとの顔見て拝み手なんぞしよって」

「飲む大師食う大師、生麦大豆二升五ん合、生麦大豆二升五ん合、般若の人形、般若人形…」

「なんじゃ、それ」

「ご隠居、これ知らんので…飲む大師 二升五ん合、はんにやしんぎょう」

「なんやて…もういっぺん言うてみなはれ」

「…生麦大豆二升五ん合。二回食うて五升（後生）大事」

「うん、なんどのう、ご宝号らしゅう聞こえるな。言えとる言えとる」

「こんなんでええのやったら、まだまだありますでよ、お経みたいなもん…この間、伊予のじいさん遍路に教えてもろた」

「言うてごらん。怒れへんから…」

「ほんなら失礼させてもろて…まずは海鮮バージョンでいくでよ…おん えびふぐたこいか おおとろとろ、ちゅうとろとろ うにかにもずく蕎麦屋で うん」

「ほう…誰が考えたか知らんが、それらしくできとる。世間には、けったいな替え歌をこっしやえて、面っ白がる人がおるもんじゃ。だが、ご真言に戯れるとはなあ」

「感心しとらんと、ご隠居もこっしやえてみたら、どうでよ。虫づくしなんか…いけるでよ」

「ムリじゃ。そんなクソごじゃできん。ほれにしても伊予の遍路爺さん、ちと、ふざけ過ぎじゃ」

「別に、かんまんでないで。ちゃんがれ祭文じゃと思うとったら、ええのんと違いますか？ご隠居はんかてこの間、日本昔話をしてくれたことがありましたで。ねずみチョロチョロ オン チョロチョロとか、念仏で泥棒を追い払う話…」

「おう、そうじゃったな。ほんでもな、オン チョロチョロには滑稽味があつて憎めん。ほれに較べて、海鮮皿盛り海老ふぐ蕎麦や…ちゅうのは、いかにも品がない」

「ご隠居、そば屋か寿司屋にウラミか、なんぞござるんか」

「ないない、なにもない。ただ、お念仏や真言を軽口のネタにされとうない、と言うておる。お経一日一万、百日百万遍という。仏さんへの帰依讃嘆を真言百万で体現する。お経一心、己れを無にする。お大師さんは若き日、山林海崖に身を置いて百日百万遍、室戸で明星来影す、じゃ。はよ言うたら、お前さんも遍路に出て、難渋のなかで真言唱えておれば、お経の真意、つまり仏の御心に気がついて、ありがたみが分かるかもな。どうぞい、お遍路に出る気にならんかね」

「わしは十八里。ムリの三倍。よう行かん。連れがおらん、真言知らん。せこいのいや、ゼニがない」

「そうか…ほんじゃ、私が一度連れてってあげてもよいぞ」

「ほんまで？…わしも、一回は参らないかんと思うてましたけん」

「結構きついぞ。覚悟できとるか。江戸の川柳に、お前さんのような男を詠んだ句がある…地獄行き 決まったあとの 寺参り…」

「きついなあ、はっきり言われとるわ」

「途中で泣き言、言わさんぞ。星発星宿…朝早いわ、腹へるわ、足にマメできるわ」  
「覚悟しとりますよ。わしよりか、ご隠居の方が危ないですよ。足弱そう、腰痛そう、小便近そう、胃腸わるそう。ほんまに、いけるんで？この間も、豆腐にけつまずいた、言うとった」  
「ああ、あれは冗談。豆腐じゃのうて犬の糞でこけた、土手の茅に足とられた、石ころ蹴って足首痛めた…まだあるけど…じじいのドジをみなが軽く笑ろうてくれたらええのんじゃ。わしは、なんぼ人に笑われても、汚辱の泥田から這い上がる。遍路しもって鍛えとるけん…」  
「自分ばっかし、ええ格好つけて！そう、うまいことゆくかいな。こっちは、ご隠居のことを心配しすぎて、頭も財布も、薄うなった」  
「口のへらん男よのう。ま、それも愚者の一得、取り柄と言え言えるわな。ところで、不信心のお前さんでも、どこぞ、一度ぐらいはお寺参りしたことあるだろう」  
「ほうやなあ…近所のお地藏さんのほかには…そうじゃ思い出した。南のサバ大師さん。ずうっと前に、新家のばあさんにつれていてもろた」  
「おう、そうか。それはよかった。鯖大師は、番外霊場の一つよ。お大師さんの塩サバの話、法力の話、聞いたことあるじゃろよ」  
「新家のばあさんも言うもったで。馬子の積み荷のサバを、お大師さんが海にもどしたら、生き返った話…そのサバ、食うと旨いんやって」  
「なに？大師のサバ、新家のばあは食うたんか、お前も…ほんまかいな。バチあたり！」  
「オーマイブツ！。ここのサバはありがたい、食べたら風邪ひかん、いうて、評判になったんで、ついつい…ほのうちに『大師のビンビ』いうて、大阪の方から仕入れに来る人もおった…抜け目のない奴っちゃ。お大師さんに儲けさせてもろて。ほんなん許しとって、ええんか」  
「うーん、難しな。一概に、けしからんとも言えんかもしれんな。分からんいきに、相手の人をずるい、へらこい、とか思い込むのはまずいと思うですよ」  
「どしてで？お大師さんが、せっかく生き返らせてくれた魚を、勝手に捕りくさって…」  
「そこよ、寅さん。こんなふうにも思うたらどうや。生き返ったサバが、お大師さんのご恩に感謝して、みなさんのお役に立つなら、どうぞ私を食べて下さい、ほんでまた、大勢仲間をつれてここへ引き返してきて、わざとにつかまった。おかげで、貧しい漁師の村が救われた…」  
「へえ、おぶけたぞ。ようでけたサバがおったもんじゃ。鶴でのうてサバの恩返しかいな。ほんな作り話、勝手にこさえて、かんまんのでか。文句出るでよ」  
「そう言われると苦しいのう。ほんでも法話らしい筋が通つとる、気いせえへんか。村びとの切なる願いとお大師さんの大きよい慈悲が、仏教説話を生むもんじゃ。縁起物には、そんな霊験話がついとるから、名物になる」  
「うまいこと言いよる。ほんでも、あかんでよ。ご隠居の欲の皮がチラチラ…見え見えや」  
「ほうか。煩惱即菩提、貧をすくうに財をもって心となす…この話、大師のお言葉のままじゃけんど…ほんなら、大師のビンビでのうて他のものでいこか。大師のナントカ…なんぼでもあるけん、商売のヒントになるかもな」  
「ほんまで？ちょっと、教えてつかい」  
「大師の芋、大師のお焼き、大師の貝、大師の栗、大師のタネ…どれでも選びいな」  
「うん…やっぱりわしは、大師の蕎麦（側）がええ！」

中入

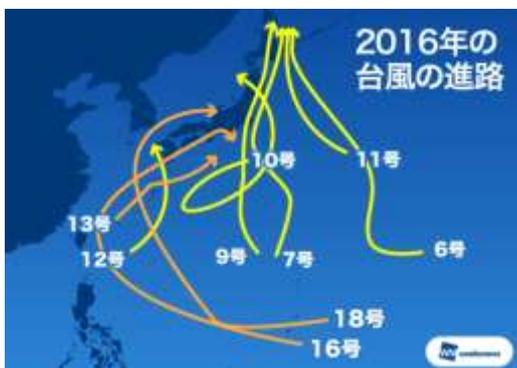


## 食べくさしのままにせんように

会員 大垣光治（美馬市）

日本では1年間に1000人の方が熱中症でなくなっているそうです。20年前には200人、10年前には300人くらいだったので、ものすごいスピードで増えていますね。

そういえば、ポテトチップスがコンビニやスーパーの店頭から消えるかもしれないと騒が



れています。これも地球温暖化による異常気象が原因かもしれません。ジャガイモの産地、北海道十勝地方に、去年八月に四つの台風が大きな被害を与えたのを覚えていますか。もともと台風には縁のなかった北海道、ジャガイモの生産はガタガタになってしまったとか。<https://matome.naver.jp/odai/2149181326142757101>

貴方は、地球温暖化による異常気象をストップするために、どんなことをしていますか。

- 1) 「ノーベル平和賞を受賞したケニア人ワンガリ・マータイさんが提唱したもったいない運動」
- 2) 「ネクタイを外して、冷房温度を少し上げるクールビズ」
- 3) 「ゴーヤや朝顔でつくったみどりのカーテン」
- 4) 「レジ袋の代わりにマイバッグを！」
- 5) 「ノーカーデー」
- 6) 「夏至や七夕に電気を消すライトダウンキャンペーン」
- 7) 「地元で生産した食材を、地元で消費するフードマイレージ」
- 8) 「割り箸の代わりに、自分の箸を」 など

他にもあると思いますが、「クールビズ」や「みどりのカーテン」のようにすっかり定着したのもあれば、「マイバック運動」や「ノーカーデー」のように、あまり広がって行かないものもありますね。

去年くらいから急に注目を浴びだしたのが「食品ロス」という言葉です。



徳島県からもらったパンフレットには、日本では食べられるのに捨てられている食品（食品ロス）が1年間に500万～800万トンもあると書かれています。日本で作られているお米が1年間に約840万トンなので、びっくりする数字ですね。徳島県でも食品ロスを減らすため「おいしい徳島！食べきり運動」を展開中だそうです。<http://yasodayori.com/?m=201505>

突然ですが、今から二千年ほど前に中東地方で活動していたイエスキリストは、一つの奇蹟を行いました。お腹を空かした五千人以上の人たちを見て、ある少年が持っていた五つのパンと二匹の小さい魚を一人一人に分け始めます。驚いたことに、五千人以上の人たちはみんな満腹になるまで食べることができたそうです。

ここで聖書の一節を引用したのはイエスの奇蹟について言いたかった訳ではありません。次の言葉に注目してください。ヨハネ6章12節にあるイエスキリストの言葉です。彼ら（5千人以上の人たち）が存分に得た時、イエスは弟子たちにこう言われた。「余ったかけらを集め、何も無駄にならないようにしなさい」。イエスキリストは、「五千人以上の人たちが食べ残したパンや魚が無駄にならないように、余ったかけらを集めなさい」と、弟子たちに命じています。集めた食品をどうしたのかは、聖書には何も書かれていません。きっとおなかを空かした人たちや病気の人たちのために、大切に使ったのでしょうね。わたしもこのイエスキリストのエピソードを知ってから、「食べくさしそのままにしたらいかな」とますます思うようになりました。ぜひ皆さんも、外食や宴会のときに、お互いに「食べくさしそのままにせんようにしような」とお互い声を掛けあうのはいかがでしょうか。

最近、小学生からシルバーの方まで、いろいろな年代の方にいろいろなところで、簡単なエコ実験（エコマジック？）をしながら、「地球温暖化について楽しく考えましょう」と、呼びかけています。ある日どこかで皆さんにお目にかかれれば嬉しいです。

\*大垣さんは、徳島県地球温暖化防止活動推進員として、学校や団体に出かけて、子供達の学習や講演等で、大活躍をしておられます。



## 変化とは『生きている証』

会員 内田武男（徳島市）

### 般若心経の心

前号で「歩き遍路」の効用について脳科学者・茂木健一郎さんの歩行禅に関する記述を少し紹介いたしました。最近「般若心経」に関する書籍を読んでいたところ、「般若心経のころ〜とらわれない生き方を求めて 2003年3月 プレジデント社」に紀野一義さんが「四国遍路」について次のように記述されているのが紹介されていました。

「ずっと昔、四国のお遍路をしたことがある。四国はお遍路の国で、どこを歩いてもお遍路さんの白装束に出会う。お遍路さんは鈴を鳴らし、「ぎゃあてい、ぎゃあてい、はーらーぎゃあてい、はらそうぎゃあてい、ぼーじいそわか、般若心経」と唱える。般若心経の呪文が潮騒のようにうねり、鈴の音はりんりんと山を越え、野を渡り、川を渡り、海の上に響き渡る。（中略）

お遍路さんが自分の命を仏さまにあずけ、「ぎゃあてい、ぎゃあてい」ととなえながら険しい道を行くと、きっと不思議なことが起こる。」

また、同じ本で、瀬戸内寂聴さんは、梅原猛さんとの対談の中で、

「瀬戸内：最後に、「羯諦羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提薩婆呵」という一節があって、あれだけが漢訳してないわけでしょう。サンスクリットそのままなわけですね。（略）どうも無理に訳さない方がいいようです。（略）マントラ、真言を訳すと有難味がない。それから「羯諦羯諦……」と繰り返していると、非常に気持ちよくなります。」と話されています。



### 生きることへの挑戦

もう一つ、「四国遍路」に関するお話です。国際コミュニオン学会の名誉会長である鈴木秀子さんが月刊誌「致知」の2017年7月号で次のようなお話を紹介されていました。

「定年退職後に四国遍路に行った知人がいます。歩き始めて数日後、彼は山中で道に迷ってしまいます。川に沿って下れば人里に着くだろうと、危険な道なき道を夜を徹して歩き続け、東の空が白んできた時によりやく里に辿り着くことができました。たんぼ道を歩いていると、一人のお婆さんが近づいてきて男性の手のひらに少しの米粒を置いて、丁寧にお辞儀をした後、何も言わずに立ち去って行きました。彼は命が助かったことのありがたさを噛み締めながら、安堵感からか、お婆さんが渡してくれた米粒を手のひらにのせたまま、しばらくはその場にじっと立っていました。すると驚いたことに、どこからともなく小鳥たちが集まってきて男性の肩に留まり、手のひらの米粒をついばみ始めたというのです。小鳥たちに男性を恐れる雰囲気は少しもなく、完全に安心しきった様子でした。それは考えられないような情景でした。この時、男性は「小鳥も米粒もお婆さんも自分も、すべては一体なんだ」「命は人間や動物というような垣根を越えて、すべて深いところで繋がっているんだ」「お互いがお互いを支え合っているんだ」という思いが心の奥底から込み上げてきたといいます。」

人は、何らかの「変化」を求めて「四国遍路」を「歩いて」目指すのではないかと思うのですが、それは、とりもなおさず「生きる事」への挑戦です。「自分らしく生きる」ために変化を求めているとも言えます。「変化」という言葉には、未来、夢、希望、成長、前進などの意味が込められていると感じます。

そして、実際に「歩き遍路」を体験する中で、生涯忘れ難い体験を手にすることもあるようです。

一歩会が取り組んでいる遍路道の環境美化は、ご紹介したような四国の素晴らしい自然に響き渡る鈴の音をもたらし、お遍路さんの貴重な体験に対して無形の貢献をしている「非常に意味のある活動」だと改めて感じます。

### **変化は小さな努力の積み重ねで求められる**

ところで、前の松下電器（現在のパナソニック）社員で、あの大会社のゴミを一人の力で99%資源化したとされる鈴木武さんは、「一日一センチの改革 ～ ゴミゼロへの挑戦 2008年2月 致知出版社」という本を著しておられます。鈴木さんは、「周りでは誰も気がつかないのに、五年、十年経ってみると、確実に何かが変わっている。」と書いています。また、「楽しくなければボランティアじゃない」「自分で考え、自分にできることは自分でやっているから、大いに満足している。毎日ボランティア活動をしていて、“どうして自分がこんなことをやらなければならないのか”と悩むことさえない。」とも書いています。変化は、変化を求める心、希望、夢などをもとに、一日一日の積み重ね、小さな努力の積み重ね、小さな工夫の積み重ねでもたらされると思いますし、まさに、「生きている」からこそ変化することができるんだと思いました。

人だけでなく、人々の集まりである組織についても、変化を求め、新しいもの・ことへのチャレンジが行われている限り、生きていると言えるでしょうし、社会に変化をもたらすことができると思います。

私事で恐縮ですが、最近、長年連れ添ってきた妻を亡くし、「いろいろなこと」を考える日々が続いていましたが、変化とは『生きている証』という言葉に出会い、その言葉に刺激を受けているところです。私自身も「生きている証」である変化を求め、それこそ、「悲しみ」や「後悔」を乗り越えて、「楽しみながら（できるかどうかはわかりませんが）」一生懸命生きていきたいと思っている次第です。



## 県南海岸を利用し遍路道ウォーキングで薬王寺へ

会員 富田 欽二 (小松島市)

我々徳島共生塾一步会は後援：徳島県、徳島ユネスコ協会、徳島経済同友会、四国八八ヶ所霊場会阿波部会等の協力を得て、今までの人は殆ど体験していなかった美波町の海岸を利用して薬王寺に向かう遍路道を辿ろうと昨年 11 月 19 日(土)、主に海外留学生達と共に体験いたしました。この道路は由岐支所の話だと 4 時間も懸るとの話だったので事前に自分と協力者の 2 人で下見、田井ノ浜休憩所より薬王寺までは 10Km と少し遠いので、木岐駅の近くにある満石神社、椿公園に徳島よりバスを到着させてのウォーキングと決めました。満石神社の井戸の水は皮膚病(特に「イボ」取りに効能があると伝えられており、県内はもとより、遠くは阪神、九州方面からもこの名水を求めて訪れる人が絶えないとのこと。

既に通過しましたが、由岐漁港沖少し南に阿波沖海戦小公園があります。そこには今も軍艦の大砲を模った模型が設置されています。この沖で慶応 4 年 (1868 年) 1 月 4 日、京都で鳥羽伏見の戦いが始まった日、幕府の軍艦「開陽丸」と薩摩の軍艦「春日丸」が由岐漁港沖で日本初の洋式海戦を展開しました。JR 由岐駅(ポッポマリン)2F では阿波沖開戦や田井遺跡の資料を展示しています。そんな歴史などを知り、いよいよ、8 時 15 分徳島駅を出発、参加者は徳島大学や鳴門教育大などの外国人留学生中国、台湾、アメリカ、フランス、フィリッピンベトナム。マラウイ、パキスタン、ソロモン諸島、イギリスなど 17 名と遍路ガイド遍路先達、佐野さん、英語と中国語の通訳各 1 名、スタッフ 12 名計 29 名で出発、9 時 20 分、木岐の満石神社に到着、トイレ休憩の後遍路の菅笠、白衣、輪袈裟、金剛杖を渡し、遍路旅を体験して戴きました。

① 浜を左に遍路ウォーキング



② 俳句の小径休憩所前

薬王寺まで約 9 Km、先ず木岐の商店街を歩いて白浜を左に見て、俳句の小径はそこから山道、緩やかな山道であるが 2, 5Km、日頃の歩きが必要です。そこで黒人に近い大柄な男性と話したが、彼は、カロリン諸島フィジー からの留学生で日本の風習、習慣、宗教に関心を示し健康的な遍路ウォーキングに参加した様です。私は関西汽船にいた頃は外航船かんべら丸とせれべす丸に乗って日本とニュージーランド航路の北部マウント、マンガヌイ航路に乗り、松材を運んだ事があります。かんべら丸では 24 歳の頃、松材を満載していたが、サイクロンに会い、緊急通信を出しました。その場所がフィジー諸島沖、当時はオーストラリアのブリスベン局と連絡したのみで、付近の船舶も近くには存在せず、焦りました。不幸にも、若い 21 歳のセーラーが甲板上にある松材を

点検中、波にもまれ船外へ投げ出されました。サイクロンの嵐が激しく、助ける方向へも舵が取れません。船長は全船員を集め、こんな危険な状態なので、サイクロンを避け航行することを告げ、涙の脱出をした経験があります。そんな広い南太平洋のフィジー諸島の人でした。日本へは週 2 回ぐらいフィジーとシンガポール間がありますので利用しています、との事。徳大の留学生の事ですから期待しましょう。

山を登ると 1 K ぐらいの車道があり山座峠に到着、そこから薬王寺迄は 5. 2 Km ここに先に若い遍路さんが来ていて、宿に泊まることもなく野宿の生活を続けていますとの話がありました。彼は、凄いスタミナです。その山座峠を下り、恵比寿浜へ 1. 3 km ようやく平地の恵比寿浜のキャンプ地へ、トイレ休憩を挟んで海岸道を歩いてえびす洞近くのホテル白い灯台へ。雄大な海と大浜が見える広いレストランでの食事を取り、休憩、そして 1 3 時 2 0 分後ウォーキング、大浜海岸、八幡神社を通過して町へ、すると美波町役場近くにある奥河内で、地元の女性の方、大勢のお接待を受けた。お茶、お菓子それに小袋の贈り物、有難い。

③ 山座峠より恵比寿浜へ



④ 日和佐でのお接待で一休み

⑤ 全員で般若心経を唱える



⑥ 薬王寺山門へ到着

そこより薬王寺まで 1 k 程、1 4 時 1 0 分山門に到着。薬王寺は 7 2 6 年行基菩薩が聖武天皇の勅願を受けて建立、その後、8 1 5 年弘法大師が平城上皇勅命によって薬師如来を刻んで開基したと伝えられる。そんな歴史を学びながら体験により①遍路の基本知識②お接待③札所での参拝の作法④歩き遍路の要領⑤参加者相互の国際交流等を学びました。参拝後、薬王寺山門広場でぜんざいのお接待を受け、全員記念撮影、又の再会を誓って、バスで徳島へ向かった。

## きれいな街は「市民の一步」から

会員 瀬尾規子（吉野川市）

私が、環境問題に関わるようになったのは、平成 11 年に「徳島県共生塾 環境ボランティア養成塾」を受講してからです。県内各地から 50 人ぐらいが受講していました。その中で一番鮮烈だったのは、当時静岡県庁職員だった渡辺豊博さん（通称ジャンボさん）の「右手にスコップ、左手に缶ビール」という合言葉で活動している環境ボランティアのお話でした。その中で、グラウンドワークという、市民・企業・行政がパートナーシップを組み、身近な環境改善に取り組む、イギリス発の市民活動にとっても関心を持ちました。これが「新しい公共」、今の「官民協働」の原点です。まず一步踏み出せば、何かできる、地域を変えられる、という希望と元気をもらった講座でした。フィールドワークとして、滋賀県甲良町を訪問し、まちづくりのようすも見学しました。この共生塾を修了した人たちで作ったのが「一步会」です。

平成 12 年には、ステップアップ講座として開講されたグラウンドワークトラスト事業の講座も受講し、静岡県三島市を訪問し、ジャンボさんや小松さん（現 NPO 法人グラウンドワーク三島理事長）の案内で造成中の学校ビオトープや市民で作った公園、富士山の湧水河川の



清流に変わった源兵衛川



源兵衛川などを見学しました。源兵衛川は、「水の都・三島」を代表する湧水河川でしたが、家庭雑排水やゴミなどで環境が悪化し、ドブ川になってしまいました。そこで、ふるさとの原風景を取戻そうと市民が立ち上がり、市民・行政・企業がパートナーシップを組み、環境改善を進め、清流が蘇りました。この活動がきっかけとなり、グラウンドワーク三島実行委員会が誕生し、現在 NPO 法人として環境改善活動に取り組んでいます。

間近に富士山が見える三島の街

共生塾を修了し、グラウンドワークを実践するべく、平成 12 年 8 月に江川エコフレンドを立ち上げ、環境保全活動に取り組んで 17 年。市民の一步が、世代を越えて広がり、参加者の積算人数は 1 万 4 千人を超えました。鴨島第一中学校の生徒たちは、学校周辺の道路や校庭の清掃作業をすることによって、環境クリーンアップの意識が醸成し、校内のゴミがなくなったそうです。また地元のスーパーマーケットが発泡スチロールや透明容器、牛乳パックの回収をしているので、リサイクルの意識も確実に高まっています。「捨てればゴミ、分別すれば資源」を合言葉に自治体でも資源ゴミの回収が進んでいます。近年、住民の環境への意識は大きく変わってきました。きれいな街は、市民の一步から始まると思います。「一步会」はまさにそのリーダーを担ってきたと思います。



清掃作業に参加した中学生

最後になりましたが、「一步会」の 2 代目会長として長年に渡り、会を牽引し、徳島県のみならず全国の「一步会」に発展させた新開善二さんの情熱とガンバリに心からエールを贈りたいと思います。

## 松江豊寿中佐とドイツ人俘虜たち

～板東俘虜収容所開設100周年を迎えて～2017年4月9日

会員 川井ふみ子(鳴門市)

大正6(1917)年春、徳島県鳴門市近郊の板東。第一次大戦で日本は日英同盟の誼(よしみ)によって、中国でドイツが租借していた青島要塞を攻撃・占領し、4,600余名のドイツ将兵を捕虜にした。これらの捕虜たちは、日本国内12カ所の収容所に入れられたが、まもなく6カ所に再編された。89名は久留米の収容所から板東に移送されてきたのだった。久留米の48連隊は、青島戦の主力として戦った事もあって、この地には戦死者の家族も多く、捕虜たちを憎悪で迎えた。捕虜たちは小さな南京虫だらけの藁布団に寝かされ、事ある毎に鉄拳で殴られた。だから、新しい収容所に移送されると知っても、何の希望も持てなかった。「聞こえる…音楽が」と戦闘で失明したドンゲルが言った。遠くからかすかにブラスバンドの音楽が聞こえてくる。隊列が進むにつれて、音楽ははっきり聞こえるようになった。間違いない。それはドイツの愛国歌『旧友』であった。

俘虜収容所の門をくぐると、ブラスバンドの一隊が整列していた。青島で別れ別れになった戦友たちの懐かしい顔が見える。捕虜たちは抱き合って再会を喜んだ。

「捕虜どもを整列させいッ！」と久留米から引率してきた指揮官が叫ぶと、衛兵たちが、捕虜を銃の台座で打ち据え始めた。歓喜の叫びが、悲鳴と怒号に変わり、いまにも暴動に発展しそうな雲行きとなった。

「やめいッ、よせッ」と鋭い声がかかった。収容所の副官・高木大尉であった。そこに立派な八の字髭の人物が現れ、落ちていた帽子を拾い上げ、土を払ってから、「誰のものか」とドイツ語で聞いた。ヘルマン一等水兵が手をあげると、ニッコリ笑って帽子を手渡した。

「私は所長の松江豊寿(とよひさ)である。ただいまの衛兵たちの非礼について心からお詫びするとともに、あらためて歓迎の辞を申し述べる。」

ドイツ語の丁寧な挨拶が信じられず、久留米から来た捕虜たちは、思わず顔を見合わせてしまった。所長に促されて、副官の高木大尉が流暢なドイツ語で通達した。

「諸君。本日に限り、就寝時間が12時までには延長される。2年ぶりの再会だろう。おおいに旧交を温めたまえ。」

それを聞いて捕虜たちの間から、ドッと歓声が上がった。

上記のようなエピソードは、まだ一部分です。その後、自由な生活を過ごしたドイツさん(村人は好意を込めてこう呼んでいます)との交流が現在まで受け継がれています。

先日、板東俘虜収容所開設100周年で、ドイツさんの慰霊碑に献花することができました。惜しくも病気になり母国に帰れなかったドイツさんのお墓には今も花が絶えません。また、私も素人ながら「ベートウエンの第九交響曲・第九番」のコーラスに参加していますが、今年20回目の参加ということで表彰されることになりました。

松江豊寿所長の功績を称えて、銅像を建立する取り組みも始まっています。松江豊寿所長といい、賀川豊彦といい、鳴門には「友愛」の精神を持った人物がいたことは、とても誇らしいです。ドイツ館、賀川豊彦記念館を、是非ご覧になってください。

賀川豊彦記念館





## 「一歩会活動への参加を振り返って」

会員 多田 昭恵 (小松島市)

私は徳島県主催の環境ボランティアリーダー養成塾を終了してから、少しずつボランティア活動を身近なところから始めました。最初は友達に手伝ってもらい、割り箸集めを始め、たびたび王子製紙へ送ることが出来ました。この頃は竹箸にほとんど変わってしまいましたが。花いっぱい運動をパラソルショップで行い、山林体験や千年の森植林保全に、大正館での修復やビオトープ作りを徳島や石井の小学校校庭内で、小学生と一緒に行いました。町屋カフェオープン時や徳島生まれ徳島育ちの思い出いっぱいの春の宴の遊山箱を作りました。手作り弁当を子供たちはとても喜んでくれて、貴重な文化であると誇りに思っております。「和庵」(小松島の大正館)の手作り庭園に睡蓮が咲く頃、雛祭り、手作り寿司ランチにゆったりと悠久のひと時を想わせました。

そして、世界はどうかと思った時、10日間オーストラリアへ行く機会がありました。ブリスベンに降り立った時、綺麗だなと思いました。ハーバーブリッジやシドニーのオペラハウスを見学したり、ゴールドコーストにも行き、カンビンではコアラを抱っこしました。ブルーマウンテン国立公園はごみの少ない公園でした。日本の公園とは大違いです。現地の人に、「老後はオーストラリアで住みませんか？家も庭付きで安く買って、プールもついていますよ」と言われました。本当に住みたいなと思うぐらいゴミの無い素敵な街で、良き思い出になれました。世界でもごみ問題は常に話題に上っているようでした。

また、四国四県の八八ヶ所遍路道清掃活動にも参加したり、ある時は山の仲間25人とハイキングがてら一宿寺から太龍寺まで清掃をしたのですが、台風の後には大きな木の石をどかせながら、蟻のごとくコツコツと大変な思いをしたこともあります。

一歩会では何度か遍路道の保全整備とごみ撤去作業を皆さんと一緒にしたことを時々思い出します。「四国八八ヶ所霊場遍路道」の世界遺産登録を目指すにあたり、一軒一軒まわって世界遺産について説明しながらの署名活動に少しは協力出来たのではないかと考えています。

平成二七年には背柱管狭窄症や心房細動になり、5か月間、日赤病院にかかって何もすることができない年でしたが。平成28年(うるう年)には、逆打ち遍路を5か月間かけてしました。八十八ヶ所参りも今までに3巡することが出来ました。これからも一歩会の皆様の活動と健康を祈ってやみません。



## 「一歩一歩進むこと」

～一步会の設立20年目を迎えて思うこと～

ユース会員 福谷 洋介（北島町）

今年是一歩会が設立して20年と云う節目の年です。そして、理事長も変わり、取り組む活動は変わっても、一步会が大切にしてきた「一歩一歩進むこと」や「他団体との顔が見える連携関係」は変えてはいけないと思います。他団体に取り組む清掃活動にも参加していますが。初対面の時は緊張します。けれど、一步会活動に所属していることを知ると表情が敬意に変わる時があります。それが、一步会が活動を通じて築いた信用ではないでしょうか。何かをしたいけど何をしたらいいのか分からないと悩む青年もいるかもしれません？ そんな青年に対して、ユースは1人一人の声を大切にしながら、始めの一步を踏み出せるような活動に取り組んでいきたいと考えています。一步会の新年会の時に趣味の絵手紙を書いています。それ以外の時にも書いて、会員同士の心の繋がりをや他団体との結びつきも絵手紙を通じて、深める事に役立てて、新たな一步を共に歩いていきたいと思っています。

福谷君は絵手紙が得意です。最近の一作品をご紹介します。また、徳島新聞の読者の投稿面によく投稿しております。その一例を紹介します。



小さな親切で明るい社会に  
(北島町、福谷洋介・33歳・介護士)

エレベーターに乗って行ったりすると、声を掛けてみ  
く階のボタンを押すとき、てよかったという気持ちに  
ほかに乗ってきた人がいた なるからです。  
とします。もしそのときに 人に喜んでもらえたり、  
ボタンを押す側にあたりが役に立てたりできたらど  
いたとしたらどうします 屈つたことがあれば、やっ  
か。「何階ですか」と聞いてみませんか。必ずしもそ  
て押しますか、それともそ れが感謝されるとは限りま  
のままにしますか。 せんが、気持ちは相手に  
小さなことかもしれませんが、伝わっていると思います。  
んが、声を掛けると周りの 人のための一つ一つの行  
空気が和むことがあります。為は小さなことであって  
す。相手が自分より先に降も、その積み重ねが誰もが  
りるときに「ありがとう」暮らしやすい社会にしてい  
と言われたり、一礼をされ くのではありませんか。

## 「MOTTAINAI」を世界に広めよう！

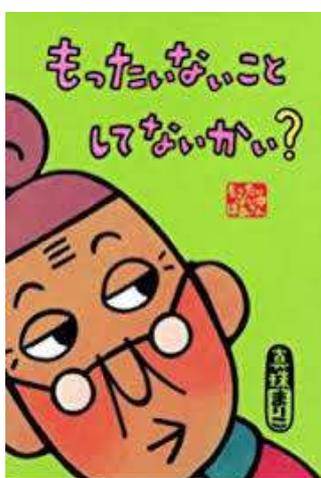
会員 笠井光顕（阿波市）  
NPO法人アスカ理事長

今回は、私がいつも愛読している月刊誌ニューモラル（568号、平成28年12月号）のひとこまを紹介します。世界が注目する「MOTTAINAI」そもそも「もったいない（勿体無い）」とはどのような言葉でしょうか。「広辞苑」（岩波書店）によると「物の本体を失する意」とされ、「神仏や貴人などに対して不都合である」「恐れ多く有難い」といった意味で使われてきた言葉です。

今日では、一般的に「その物の値打ちが生かされず無駄になることを惜しむ気持ち」を表す言葉として使われることが多いでしょう。

この「もったいない」という日本語に注目したのが、ケニア出身の環境保護活動家、ワンガリー・マータイさん（1940～2011、ノーベル平和賞受賞者）です。来日時にこの言葉と出会って感銘を受けたマータイが最近地球環境を守るため、「MOTTAINAI」を世界共通の言葉として広めることを提唱しました。リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）という、環境保護のための「3R」を一語で表せるだけでなく、物に対するリスペクト（尊敬）の気持ちまで含んだ言葉は、ほかの言語には見当たらないようです。

私たちが「もったいないという言葉を使うとき、そこには“せっかくのおいしい食べ物” “貴重な資源、まだ活用できるのに” というように、物の「いのち」を惜しみ、大切にしたいと思う気持ちが込められています。これは物質的に豊かになった現代社会においても、もう一度見直したい「日本人の美しい心」といえるでしょう



## 会員の新聞投書を紹介します。

徳島新聞（読者の手紙）・朝日新聞（声）に投書しました。

福谷洋介君・林大輔君（二人ともユース会員）

平成二十九年六月二十四日



平成二十九年六月六日

### 問題解決へ自分から動こう

（北島町、福谷洋介 34歳 介護士）

現在、国内外でさまざまな問題が起きています。今、社会はたどさんの人々です。けれども、問題を解な問題について立場を超えは他人の身に起きている問が集まって成り立っています。決していくのは簡単ではあて共に考える場や機会が必題でも、自分には全く関係す。個人と社会は、お互いりません。全ての人が解決 要だと思ひます。そして、ないとは言切れないと思に影響を身えたり与えられ していきたくと思っている 誰かが動いて解決してくれいます。人間は、自分が当たりしています。社会を良とは限らないからです。まるのを待つだけでなく、自事者になったときに初めてくしていくというのは、自た、問題について考えては 分が動いていくことが大切関心を持つ、という弱さが 分と周囲の人たちが抱いて いても、解決に向かって動だと思ひます。

いる不安を、少しでも減ら いてくれるとは限りませ していくことにもつながる ん。

先が見えない時代を生き と思っています。

問題を批判するのは簡単 であるからこそ、さまざま

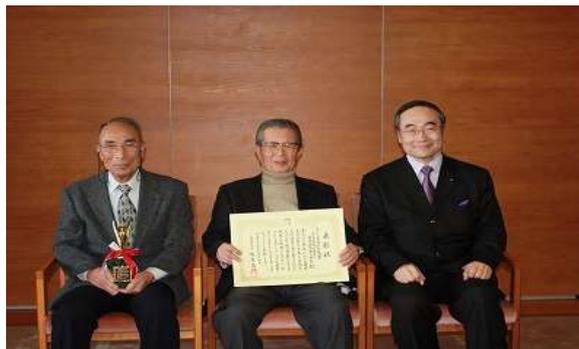
平成二十八年十二月十七日



**一步会の表彰歴・記念品一覧表**  
**～この10年間に頂いた表彰です～**

年月	表彰者	賞状名	記念品、副賞
平成 20年	<b>環境大臣</b>	<b>地域環境美化功績者表彰</b>	
	四国弘済会	地域づくり功績者表彰	
平成 22年	<b>日本計画行政学会会長</b>	<b>日本計画行政学会計画賞 最優秀賞</b>	
	エコジャパンカップ 本部（環境省、国交省）	エコジャパンカップ2010 市民が創る環境のまち 元気大賞 奨励賞	（10万円）
平成 23年	<b>国土交通大臣</b>	<b>第22回全国「みどりの愛護」 国土交通大臣表彰</b>	記念品
	森林リクリエーション 協会	森林リクリエーション協会 地域美化活動コンクール会長賞	記念品
平成 24年	地域再生大賞 実行委員会	第2回地域再生大賞 優秀賞	
	徳島経済同友会	60周年記念表彰	
平成 26年	<b>内閣総理大臣</b>	<b>緑化推進運動功労者表彰</b>	記念 の盾
	<b>徳島新聞社社長</b>	<b>徳島新聞賞第50回記念 奨励賞</b>	<b>記念品 （50万円）</b>
平成 29年	<b>徳島県知事</b>	<b>平成28年度 とくしまNPO大賞</b>	記念品

とくしまNPO大賞



## 2社より、活動資金を寄付頂きました。

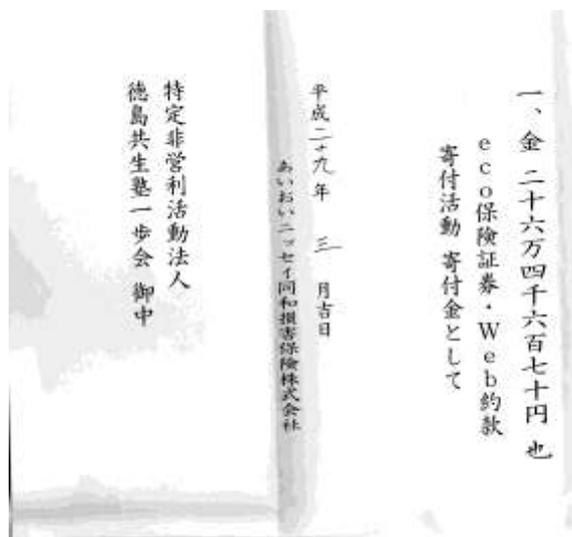
アサヒビールより、270,400円



【贈呈会】2月24日(木)徳島市市民活力開発センター  
写真中央は、アサヒビール徳島支社東野支社長

寄付金は、遍路道の整備保全、遍路文化の国内外への普及啓発等の活動に充当するというのが主旨であります。

あいおいニッセイ同和損保(株)より、264,670円



目録

【贈呈】平成29年2月に開催された同社主催のセミナーの席で、  
新開が呼ばれて参加し、目録を頂きました。

## 平成29年度の活動予定

\* 1. 毎月第1日曜は、昭和コミュニティガーデン作業

\* 2. 毎月阿南自然公園等の環境パトロールあり。

	一般事業（環境関係）	遍路事業
6月	蒲生田海岸美化作業（済み）	
7月	<b>吉野川フェスティバル 海岸の生物調査（P1）</b>	
8月	<b>阿波踊りのごみゼロ阿波踊り作戦 海岸の生物調査（P2）</b>	
9月		<b>県民の遍路ウォーキング</b> （候補地は、薬王寺方面）
10月	<b>絵画コンクール予備審査会</b>	<b>外国人遍路ウォーキングP1</b> （候補地は、鶴林寺登山） <b>障害者等遍路ウォーキングP1</b> （候補地は、1番霊山寺～3番金泉寺）
11月	<b>絵画コンクール本審査会</b>	<b>外国人遍路ウォーキングP2</b> （候補地は吉野川横断コース）
12月		<b>障害者等遍路ウォーキングP2</b> （候補地は、徳島5ヶ寺方面）
1月	<b>絵画コンクール表彰式、作品展</b>	
2月		遍路道クリーンアップ作戦
3月		<b>一日一斉おもてなし遍路ウォーキング</b> （4日に四国四県で一斉に実施）

\* 諸般の事情により、予定変更もあり。



# 新入社員の遍路研修の講座メニュー



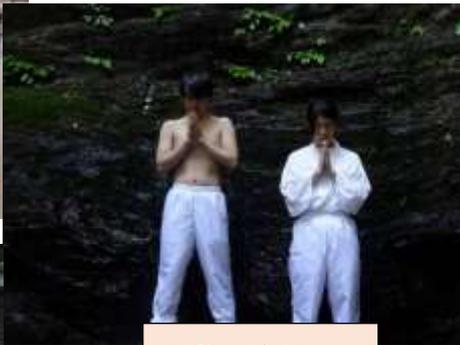
下座行（早朝の霊場掃除）

穴定禅（100米の岩穴往復）



お経を唱える

写経



早朝の滝行



ご住職の法話



**【編集後記】**  
 今年5月～6月にかけて、安倍内閣が揺らぎ始め、支持率も10ポイント下落、それも森友学園や加計学園の獣医学部新設計画など安倍総理の奥様までも絡む問題として浮上しました。個人の関わりもあるのではと混乱、奥歯にものが挟まったはがゆい政治の様相が見え隠れしています。  
 今年は徳島共生塾一步会ができて20年になります。平成13年にNPO法人に認証されて15年間、新開理事長を始め、皆様のたゆまぬ努力で徳島には無くてはならない地域貢献団体として足跡を築いて参りました。こえからは、谷口理事長の下、将来にむけて更なる飛躍ができるよう会員の皆様の総力発揮で頑張ろうではありませんか。  
 一步会だよりも今回で19号になりますが、「環境改善のクリーンアップ」をタイトルに掲げ、編集をいたしました。会員外からも貴重な寄稿を頂き、また、多くの会員の皆様の寄稿協力を頂き、有難うございました。内田さんには、いつもながらの素晴らしい表紙の制作に感謝です。紙上を通じて、会員同志のコミュニケーションが出来るよう願っております。（富田記）



# おへんろさんへのお接待



ひわさうみがめお接待の会

(平成28年10月 薬王寺)



藍住町夏休み親子お接待

(平成28年7月 極楽寺)



一步会・徳島ユネスコ協会の合同

(平成29年4月 弁天山)

おへんろさまへ  
暑い中  
ご苦労さまです  
休みながらゆくり  
進んでくださいね。  
